

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 2012年5月26日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 4年

氏名：高橋 慶大

派遣先大学名：セイント・クラウド大学 (アメリカ合衆国)

在籍身分： 交換留学生

派遣期間：2011年8月～2012年5月

渡航年月日：2011年8月22日

帰国年月日：2012年5月 8日

○研究、学習概要及び今後勉学計画

一学期の ESL の授業では、英語の四技能、話す、聞く、読む、書くの基本を学び、学術的な英語の運用能力を身につけられたと思います。この授業で得たものは、その後の留学生活ですごく役に立つものでした。また、一学期は言語教師のテスト研究の授業もありました。大学のドイツ語の教授がその授業の先生で、言語教師として生徒たちの能力を一つ一つ絞り、テストを行う目的を明確にしなければ、テストと言うものとしてうまく機能しないということや、テストはその内容だけでなく、テストを行う教室や時間帯、生徒の年齢なども考慮する必要があるということも学びました。この授業では、目指している英語科教員となったときに活かしていけると思います。



二学期には第二言語として英語を教える、ESL 教師に向けた様々な文化を理解し、人種や文化の混じった教室でどう教師が学級経営していくかということについての授業がありました。その授業では、中国や韓国、メキシコやソマリアの人々の文化、もちろん日本も含め、グループや教室全体での話し合いが中心でした。様々な文化を知ること、もしも教室の中に自分とは違った文化の中で成長したものがいても、偏見など持たずに学級運営ができます。この授業で学んだことも、教師となったときに国際理解を生徒たちに促す時に活きると思います。また、言語学の授業では、その授業が言語学の導入の授業であえることもあり、卒業論文のテーマであるコードスイッチングについてや、統語論、意味論など、とても面白い内容でした。英語の音や文法を科学的に学ぶことは、自分自身の発音の改善や、英語科の指導で特に活きると思います。実際、秋田大学には言語学の導入の授業がなく、言語学の基本的な事柄をまとめて学ぶという機会がありま

せん。留学先の大学でこの言語学の授業をうけ、私は以前以上に言語学を面白いと感じました。さらに、英語科教員を目指すものへの言語学学習の必要性も強く感じます。この授業で学んだことは後に、英語科教員として、また卒業論文を書くにあたってとても活きる、そして必要になるものだと思います。言語学の授業は留学先で受けた授業の中で一番楽しめたと思います。留学先の授業で学んだことは英語教師として、また卒業論文をこれから書く際に活かせるものばかりだと感じます。

○生活面について

留学して最初に寮に入ったばかりの頃は、英語でうまく話すことができず、不安な気持ちと孤独がすごくありました。しかし、他の留学生達とのイベントに積極的に参加していたこともあり、徐々にその生活に慣れていきました。アメリカでの生活で一番努力が必要だったのは、挨拶の文化でした。道ですれ違うときは全く知らない人でも、ニコッと微笑んだり、知っている友人や先生には、こんにちはやお辞儀だけでなく、お元気ですかなどの一言から軽い会話をするのは常で、それが最初はすごく緊張しました。挨拶は自分からするのですが、そのあとの会話がうまくできず、最初はその軽い会話の練習などを部屋ですていたこともあり、不安でいっぱいだったなれない留學生活も、ルームメイトなど、友達のおかげですごく楽しいものへと一変しました。特に寮の友達が多く、英語を教えてもらったり、毎日ラウンジで一緒に朝方まで勉強していました。友達ができると毎日が楽しくなり、授業にもやる気ができました。週末になると、現地にいる日本人の先輩方や他の交換留学生、計10人ほどの集まりがあり、楽しい週末を過ごしました。大学には、



JP ネットワークという組織があり、日本人留学生の他、日本の文化に興味がある学生が集まり、セイント・クラウドの周りの町を旅行したり、ジャパンナイトという行事では、約四時間にわたる日本各地の伝統的な歌や踊りなどのパフォーマンスを披露しました。

JP ネットワークという組織があり、日本人留学生の他、日本の文化に興味がある学生が集まり、セイント・クラウドの周りの町を旅行したり、ジャパンナイトという行事では、約四時間にわたる日本各地の伝統的な歌や踊りなどのパフォーマンスを披露しました。

○感想

今アメリカでの生活を思い返すと、様々な人、文化との出会いの連続でした。英語を学ぶために望んだ留学ですが、今回のセイント・クラウド大学での留学では、自分の中の「世界」というものがとても広がったと思います。また、人との相互関係の重要性を今まで以上に感じた10ヶ月でした。私が今回の留学を有意義なものとした要因として、現地でできた友達と日本人の先輩方の存在が一番大きかったと思います。勉強で躓いたとき、アメリカでの生活事態に少し嫌気が

さしたとき、英語の会話能力の低さに、自分に閉じこもってしまったとき、いつも助けてくれたのは友達でした。友達への感謝の気持ちでいっぱいです。また、こんなに充実した留学生活の機会を得ることができたのは、家族、大学の事務の方々や先生方のおかげです。これからもより多くの学生が貴重な学びの機会を得られることを願います。

最後に、私の留学生活を支えてくださった皆様に、心よりの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

